ISO 9001
認証取得

shindaiwa

取扱説明書

エンジンブロワ
(背負タイプ)

EB630

⚠ 注　意

ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、内容をよく理解したうえでご使用ください。不適切な操作や保守は重大な事故につながるおそれがあります。なお、この取扱説明書はいつでも利用できるよう、大切に保管してください。

目　次

	頁
1．安全にご使用いただくために	2
1－1　ご使用前に	2
1－2　給油	3
1－3　始動	4
1－4　作業	4
1－5　点検・整備	5
1－6　移動・保管	5
2．各部名称	6
3．組立の手順	8
3－1　外観と付属部品のチェック	8
3－2　ブローパイプとハンドルの取り付け	9
3－3　バンドの取り付け	9
4．エンジンの始動と停止	10
4－1　燃料の補給	10
4－2　エンジンの始動	11
4－3　始動困難なとき	12
4－4　停止	13
5．運転	13
5－1　ブロワの操作	13
5－2　バンドの調整	15
6．点検・整備	16
6－1　エアクリーナーの掃除	16
6－2　キャブレターの調整	17
6－3　スパークプラグの点検	18
6－4　マフラーの掃除	19
6－5　燃料フィルターの掃除	19
7．長期保管	20
8．故障の診断と処置	21
8－1　エンジンが始動しない場合	21
8－2　力がない場合	22
8－3　その他の故障	23
8－4　ブロワの異常	24
9．主な消耗品	25
10．仕様	25

新ダイワ工業株式会社

はじめに

新ダイワエンジンブロワをご購入いただきありがとうございます。この取扱説明書の「安全にご使用いただくために」を十分理解し、安全に使用してください。この取扱説明書で分からないことがありましたらお求めの販売店かお近くの弊社営業所にお問い合わせください。

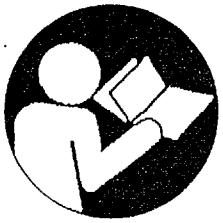
エンジンブロワは吹き出す風の力で落ち葉、小枝、紙くず、空き缶などを吹き集めたり、水、雪などを吹き飛ばして掃除する機械です。ケガや火災を予防するために安全を常に心がけてください。不注意または不適切な使用は重大な事故の原因になります。

シグナル用語の説明

この取扱説明書は次のシグナル用語を使用しています。

⚠ 危　険	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。
⚠ 警　告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠ 注　意	取扱いを誤った場合に、使用者が障害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

1．安全にご使用いただくために



この取扱説明書をよくお読みください。



作業中は必ず保護めがね、耳栓、防塵マスクを着用ください。

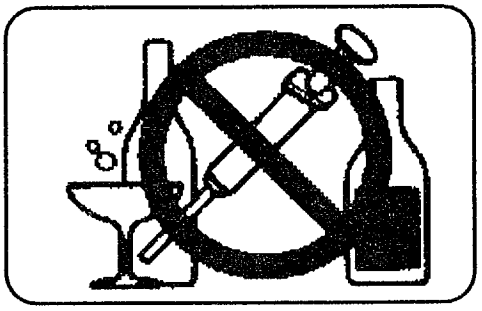
1－1　ご使用前に

⚠ 危　険

■ 屋内などの換気の悪い場所では、決してブロワを運転しないでください。排気ガスにより、ガス中毒をおこします。

⚠ 警　告

■ 取扱説明書を読んでいない人や年少者（子供）にブロワを使用させないでください。
■ 本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書を添付してください。
■ 排気ガスを直接吸わないでください。人体に有害です。
■ 決してブロワを勝手に改造しないでください。また、インテークカバーやマフラーなどを取り外さないでください。
■ ブロワ運転時は周辺に物が飛び散ったり、ホコリが舞い上がるので、人や動物を近づけないようにしてください。
■ 疲労、病気、酒気帯びの場合、または医薬品服用中の場合は作業を行わないでください。また作業中に体調が悪くなった場合にはすぐエンジンを止め、作業を中止してください。



■ 裾のひらひらした服、アクセサリー類、ショートパンツ、サンダルなどを着用しないでください。頭髪は肩から下に垂れないように覆ってください。機械の可動部に絡まる危険性があります。特にインテークカバーに吸い込まれないようにしてください。
■ 作業中は必ず保護めがね、耳栓、防塵マスク、防振性のある手袋をつけてください。
■ 視界の悪い夜間および天候の悪いときは使用しないでください。
■ 作業中に転倒しないように、靴は底に滑り止めのついた靴を使用してください。
■ ガソリンを使用しますので、ブロワのそばで喫煙やたき火をしないでください。火災発生のおそれがあります。
■ 作業前に燃料漏れがないか確認を行ってください。漏れがあった場合はただちに修理してください。
■ マフラーやマフラーから出る排気は非常に高温になりますので、燃えやすい物を近づけないでください。また、マフラーのスパークアレスターは、排気口から火花が飛び出るのを抑える役目をするので、絶対に取り外さないでください。

⚠ 注　意

■ 作業前にブロワの点検を行ってください。このとき、破損した部品は交換し、ネジの脱落やゆるみのないことを確認してください。
■ 運転前にブローパイプ類がしっかりと取り付けられているか確認してください。
■ ブローパイプ類を取り外す際は、必ずエンジンを停止してから取り外してください。

1－2　給油

⚠ 警　告

■ ガソリンと２サイクル専用オイルの混合および給油は、屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。給油はエンジンを停止し、エンジンが冷えた後にゆっくりと燃料キャップを外して行ってください。急に燃料キャップを外すと燃料が吹き出すことがあります。

■ こぼれた燃料は本体から拭き取ってください。
■ 燃料の持ち運びや保管など、取扱いには十分注意してください。

1－3　始動

⚠ 警　告

■ エンジンの始動は取扱説明書に従い、安定の良い平らな場所で行ってください。
■ 始動時は周囲の安全を確認して行ってください。
■ 漏れた燃料への引火防止のためエンジンの始動は、給油場所や燃えやすい物から３m以上離れた場所で行ってください。

1－4　作業

⚠ 警　告

■ 破損していたり、必要な部品がしっかりと組み付けられていない場合は決してブロワを運転しないでください。事故の原因となります。
■ しっかりした足場の上で安定した姿勢で作業を行ってください。
■ ブロワを落としたり、何か異物が当たったときは、エンジンを止めて損傷の有無を調べてください。もし損傷があれば使用せず、すみやかに修理してください。
■ ブロワの吹き出し口を人や動物に向けて、直接風を当てないでください。また、作業中常に吹き出し方向に注意を払ってください。
■ 燃料の漏れについて、時々確認してください。
■ 燃料が漏れた場合は、ただちにエンジンを停止して、火気を近づけないようにし、修理してください。
■ 衣服に燃料が付着しないように注意してください。もし、付着した場合はただちに衣服を着替えてください。

⚠ 注　意

■ 作業中にノズルの吹き出し口や空気吸い込み口をふさいだりしないでください。吹き出し圧力により、ノズルが外れたり、過回転によりブロワの故障の原因となります。
■ ブローパイプやノズル無しで運転しないでください。過負荷によりエンジンが故障します。
■ 運転中または停止直後に高温部（マフラー、シリンダー、エンジンカバーなど）に触れないでください。ヤケドをします。

■ 運転中は高電圧部（プラグキャップ、プラグコードなど）に触れないでください。感電するおそれがあります。
■ 高速での運転時にブロワーを直接地面に置かないでください。砂、草、落ち葉、ゴミ等が吸い込み口から入りファン等を損傷させたり、ノズルからホコリや砂が吹き出して他の人がケガをするおそれがあります。

1－5　点検・整備

⚠ 警　告

■ 点検・整備（掃除など）を行うときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
■ ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のない所で行ってください。
■ 燃料キャップ、燃料タンク、燃料パイプおよびキャブレターなどから燃料漏れがないか定期的に確認してください。
■ 整備と修理を行うときは新ダイワ純正部品を使用してください。 他社の部品を使用すると重大な事故になる危険性があります。
■ 取扱説明書に記述がない整備や修理は行わないでください。記述のない整備や修理はお求めの販売店かお近くの弊社営業所に依頼してください。

1－6　移動・保管

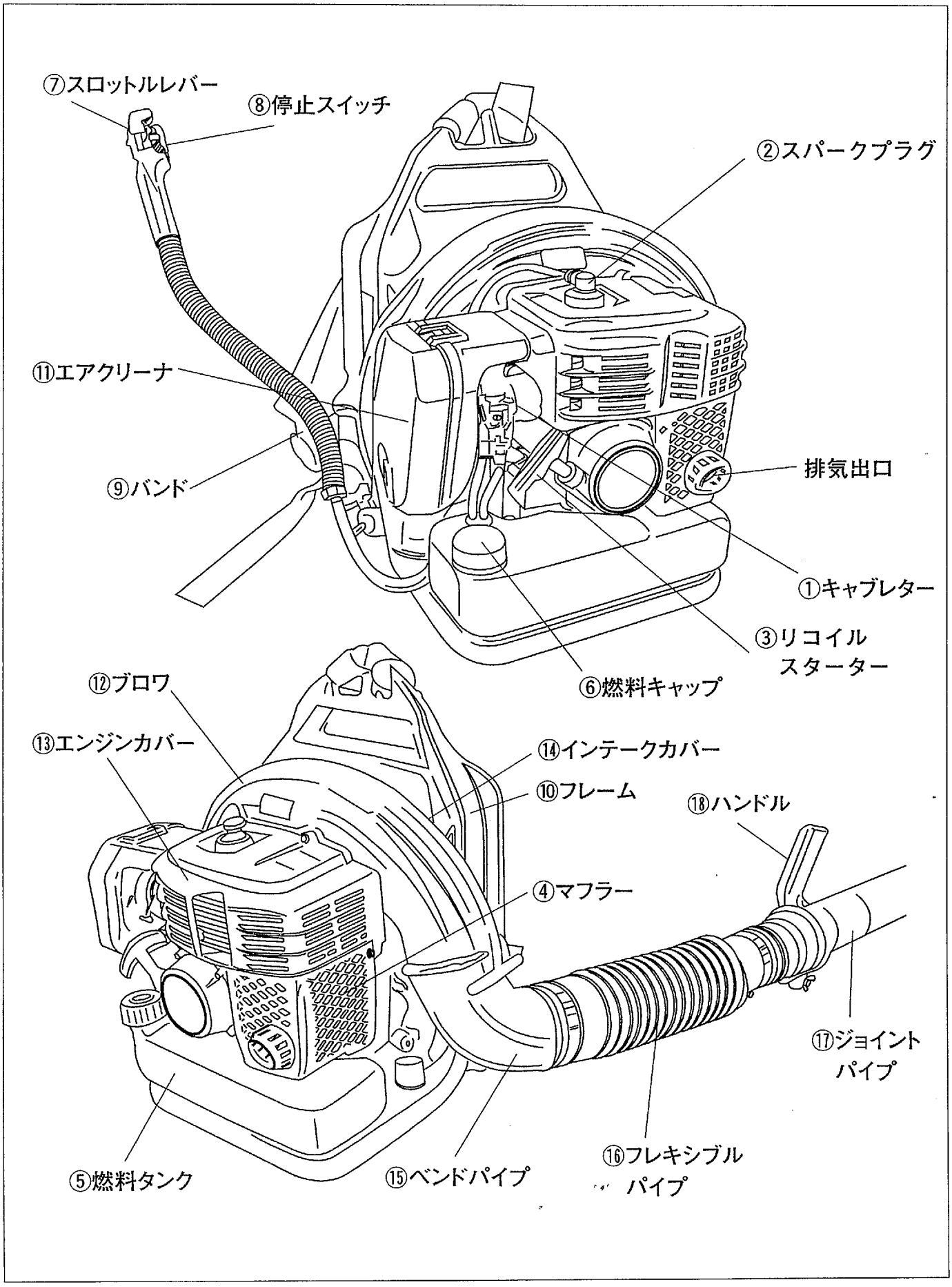
⚠ 警　告

■ 移動時あるいは保管時にはエンジンを停止してください。

⚠ 注　意

■ 保管や移動の際は、燃料漏れ、破損、ケガなどを防止するために、ブロワが転倒しないように安定した場所に置いてください。
■ 年少者（子供）の手が届かない乾燥した冷暗所に保管してください。
■ ２～３日以上保管する場合は燃料タンクおよびキャブレター内の燃料を空にしてください。

2．各部名称


⑦スロットルレバー
⑧停止スイッチ
②スパークプラグ
⑪エアクリーナ
⑨バンド
排気出口
①キャブレター
③リコイル
スターター
⑥燃料キャップ
⑫ブロワ
⑬エンジンカバー
⑭インテークカバー
⑩フレーム
⑱ハンドル
④マフラー
⑰ジョイント
パイプ
⑤燃料タンク
⑮ベンドパイプ
⑯フレキシブル
パイプ

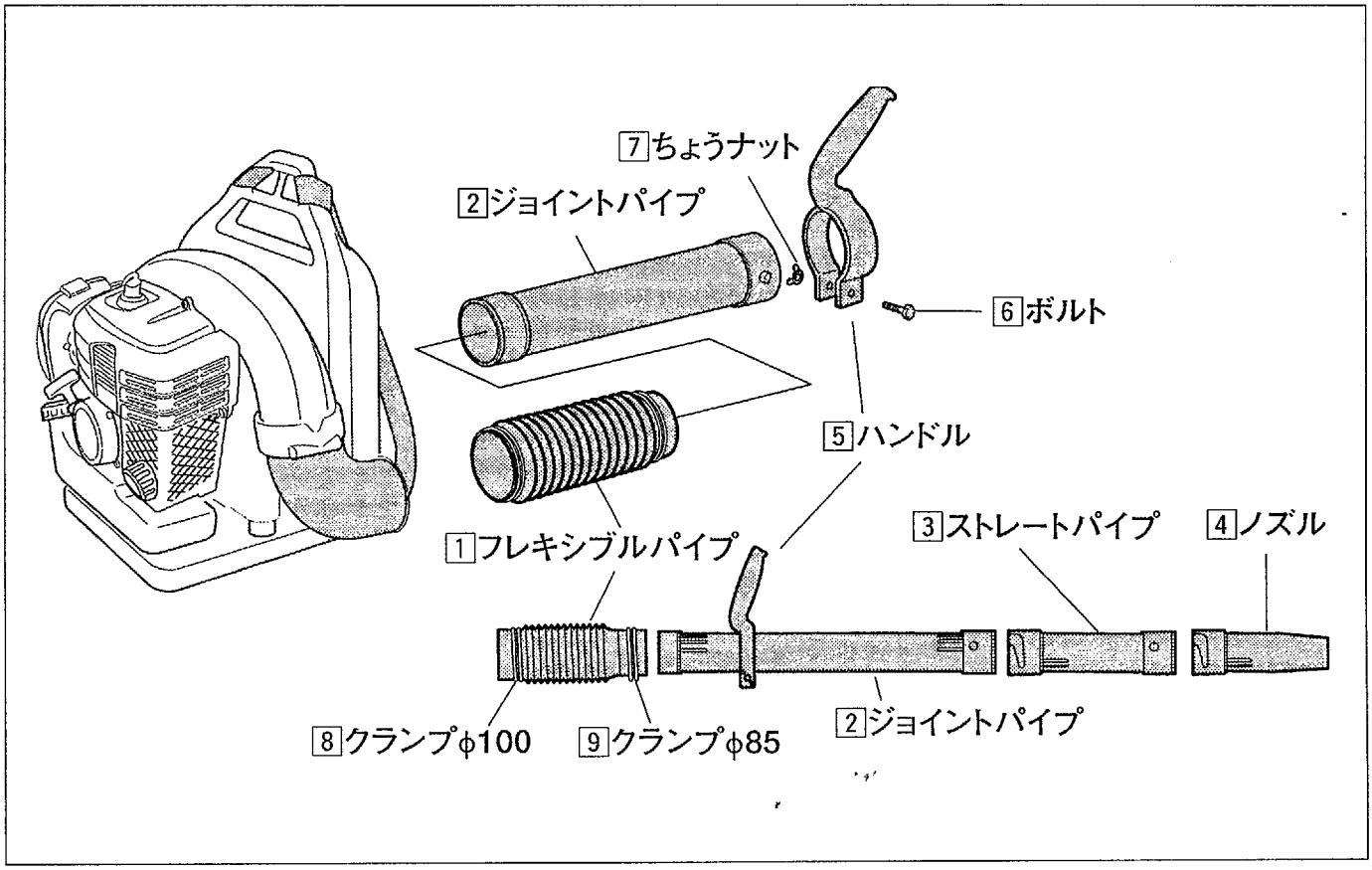
①キャブレター	燃料と空気を混合します。
始動ポンプ	エンジンを始動する前にキャブレターに燃料を送るポンプです。
チョークレバー	冷えているエンジンを始動しやすくします。
②スパークプラグ	混合気に点火するための部品です。
③リコイルスターター	ロープを引いてエンジンを始動します。
④マフラー	排気音を減少させます。
⑤燃料タンク	燃料を入れる容器です。
⑥燃料キャップ	燃料タンクの注ぎ口のふたです。
⑦スロットルレバー	エンジンの回転をコントロールします。
⑧停止スイッチ	エンジンを停止します。
⑨バンド	ブロワを肩に背負うバンドです。
⑩フレーム	背負うための枠です。
⑪エアクリーナー	エンジンに吸入する空気のゴミを取り除きます。
⑫ブロワ	空気を吸い込んで風を送り出す送風機です。
⑬エンジンカバー	シリンダーやマフラーの熱から作業者を守ります。
⑭インテークカバー	ブロワの空気の吸い込み口のカバーです。
⑮ベンドパイプ	送風の向きを前方に変えるパイプです。
⑯フレキシブルパイプ	ノズルの向きを変える蛇腹です。
⑰ジョイントパイプ	ハンドルの向きを変える回転機構のついたパイプです。
⑱ハンドル	ノズルの向きを操作する握りです。

3．組立の手順

3－1　外観と付属部品のチェック

この製品は工場出荷の際、厳重な検査を行っておりますが、念のためにこの製品の損傷やボルト、ナット類のゆるみなどがないか点検してください。また、付属部品の欠品がないか点検してください。
もし、点検の結果、異常や欠品があった場合はただちにお求めの販売店か弊社営業所へご連絡ください。

付属部品
[1]フレキシブルパイプ
[2]ジョイントパイプ
[3]ストレートパイプ
[4]ノズル
■ハンドル一式（[5]ハンドル、[6]ボルト、[7]ちょうナット）
■クランプ2点（[8]φ100mm、[9]φ85mm）
付属工具
■プラグレンチ
■六角レンチ3点（3mm、4mm、5mm）



3－2　ブローパイプとハンドルの取り付け

⚠ 注　意

- ■ ブローパイプとノズルを取り付ける前に、エンジンを始動しないでください。
- ■ ブローパイプとノズルは確実に接続してください。作業中にふき飛びケガをするおそれがあります。
- ■ エンジンを運転中に、ブローパイプやノズルを取り外さないでください。又、エンジンを運転中に他の部品の取り付け取り外しをしないでください。

（1）ブローパイプの取り付け

①ブロア本体を平らな床か、作業台の上に置いて作業して下さい。

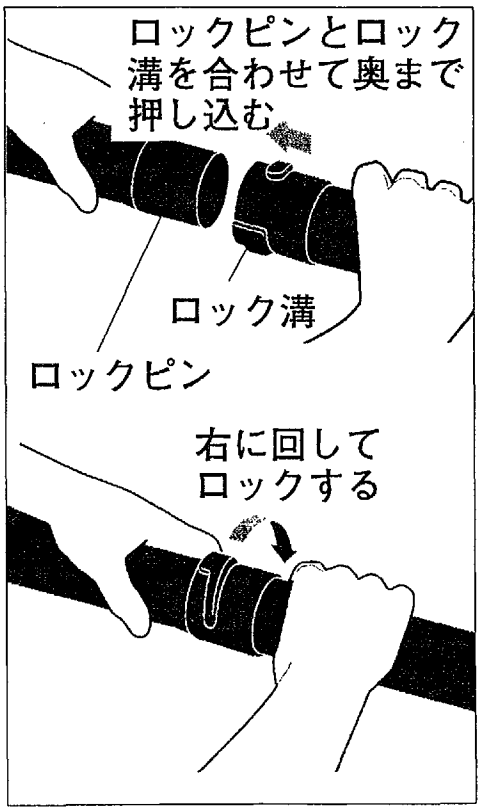
②ベンドパイプにフレキシブルパイプを差し込み、、クランプ（ϕ100）でしっかり固定して下さい。

③フレキシブルパイプにジョイントパイプを差し込み、クランプ（ϕ85）でしっかり固定して下さい。

④ハンドルをジョイントパイプに通してちょうナットで固定して下さい。

⑤ストレートパイプをジョイントパイプの先端に奥まではめ右に回して、固定してください。

⑤同様にノズルをストレートパイプに取り付けてください。



（2）ハンドルの取り付け

①ハンドルからボルト、ちょうナットを外します。

②ハンドルを前のページの図の通りの位置でジョイントパイプにはめます。

③ボルト、ちょうナットをもと通りにはめ、締め付けてください。

3－3　バンドの取り付け

バンドのフックを、フレームの下両側のリングにはめてください。
(⑮ページの図を参照)

4．エンジンの始動と停止

4－1　燃料の補給

⚠ 警　告

■ 給油は屋外の風通しのよい火気のない場所で行ってください。
■ 平らな場所で給油してください。

（1）燃料

燃料は必ず、無鉛ガソリン２５に対して２サイクル専用オイル１の割合で混合した混合燃料を使用してください。
燃料の混合は安全容器に２サイクル専用オイルを先に入れ、後からガソリンを加えてください。

ガソリン　ℓ	2サイクル専用オイル　cc
1	40
4	160
8	320

⚠ 注　意

■ 正しい混合比の燃料を使わないと、適正な性能が出なかったり、エンジンの焼き付きの原因となります。

（2）給油

⚠ 注　意

■ 異物やゴミをタンク内に入れないために、キャップを外す前に燃料キャップやそのまわりをよく掃除してください。
■ 常に新しい燃料を使用してください。２～３か月以上放置したり、異物が混入した燃料を使用すると故障の原因となります。
■ 燃料タンクに直接燃料を入れて混合することは絶対にしないでください。焼き付きや故障の原因になります。

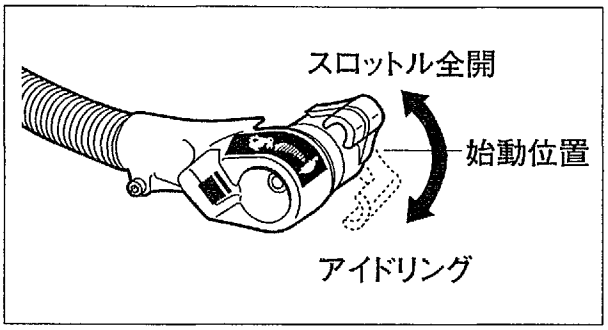
①給油する前に燃料をよく混合してください。
②燃料タンクの燃料キャップはゆっくりと外し、燃料を補給してください。
③給油後は確実にキャップを締め、燃料タンクから燃料漏れのないことを確認してください。

4－2　エンジンの始動

⚠ 注　意

- **始動時にリコイルスターターのロープを最後まで引かないでください。ロープの寿命が短くなります。**
- **リコイルスターターを急に離さないでください。正しく巻き込まれないことがあります。**

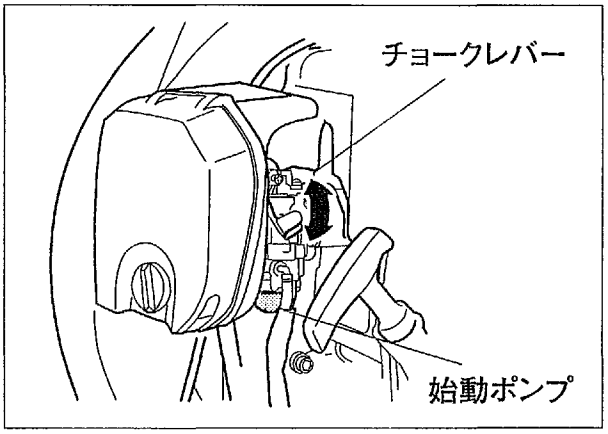
（1）ブロアを地面に置いて始動して下さい。



（2）スロットルレバーを始動位置に合わせて下さい。

（3）エンジンが冷えているとき、または燃料切れで燃料を補給したとき

①キャブレターの下についている始動ポンプ（透明の半球形）を数回押します。音が変わったらやめてください。



②チョークレバーを上（|✗|）にあげます。

③ブロワを地面に置いて左手でブロワのケースを押さえて、リコイルスターターをゆっくり引きます。かみ合って重く感じたところから勢いよく引きます。
エンジンが始動するまで、くり返し引いて下さい。



⚠ 注　意

■ チョークレバー上にをあげて始動するとき、爆発音がしたら、必ずチョークレバーを下に戻して再始動して下さい。チョークを戻さないと燃料の吸い込みすぎになり、始動ができなくなります。

④エンジンが始動したら、チョークレバーを下（|↓|）に戻してください。チョークレバーを完全に戻す前に停止した場合は、チョークレバーを上（|↗|）にあげて再始動してください。
・爆発音がしてすぐに停止した場合は、チョークレバーを下（|↓|）に戻して再始動してください。
⑤始動したら、２～３分間アイドリング状態で暖機運転してください。

（３）エンジンが暖まっているとき
①―③―⑤の順序で始動してください。

４－３　始動困難なとき

エンジンが暖まっている状態で始動しないときは、エンジンが冷えている場合と同じ方法で始動してみてください。それでも始動しない場合、またはエンジンが冷えた状態で始動しない場合は次の操作をおこなってください。
①プラグキャップを外します。
②スパークプラグをプラグレンチで反時計方向に回して外し、スパークプラグの電極部が濡れているかどうか調べてください。
③スパークプラグが濡れている場合はスパークプラグについた燃料をふき取り乾燥させてください。スパークプラグを抜き取った状態でリコイルスターターを数回引き、空転させて燃料をシリンダ内から追い出してください。

⚠ 警　告

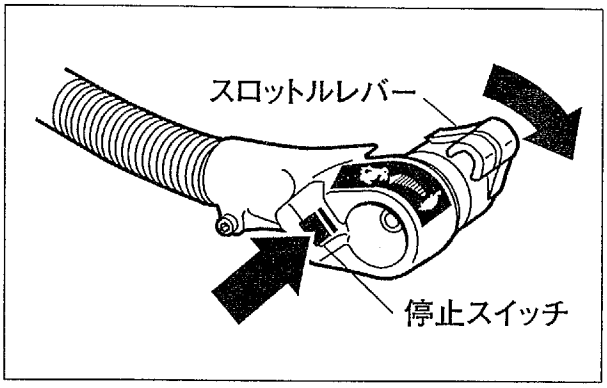
■ 火気を近づけないでください。火災の原因となります。

④スパークプラグを付属のプラグレンチで確実に取り付け、プラグキャップをつなぎます。エンジンが暖まっている場合の方法で始動してください。
⑤スパークプラグが濡れていない場合は燃料タンクから燃料が届いていないので、燃料フィルターやキャブレターを点検する必要があります。６－５項の点検をするか、またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

4－4　停止

（1）スロットルレバーをアイドリング位置にもどして、2～3分運転して、エンジンを冷やして下さい。

（2）エンジンが停止するまで、停止スイッチを押しつづけて下さい。



5．運転

5－1　ブロワの操作

⚠ 注　意

- **作業にあたっては地域の騒音規制に従ってください。**
- **作業を行うのに必要最小限の回転になるよう、スロットルレバーを操作してください。**
  回転を上げると、音も大きくなります。
- **ブロワの吹き出し口や空気吸い込み口をふさがないでください。**
  回転が上がり過ぎてエンジンの故障の原因になります。

スロットルレバーを引くことにより、回転が上がり吹き出す風が強くなります。スロットルレバーで風の力を調整してください。

ノズルから吹き出す風で庭園の落ち葉や競技場での空き缶、空きビンなどが集められます。目安として次のエンジン回転（速度）で使用してください。

・低速：芝生、植木、花壇などの落ち葉の掃除
・中速：中庭、歩道、駐車場などの草や落ち葉の掃除
・高速：道路、駐車場、競技場などの砂利、ゴミ、雪、空き缶、空きビンなどの掃除

⚠ 警　告

防音のため耳栓をつけてください

ゴーグル等の保護めがねをつけてください

ホコリを吸わないようマスクをつけてください

裾のひらひらした服やブロワに吸い込まれるようなアクセサリーはやめてください
長い髪は束ねてください



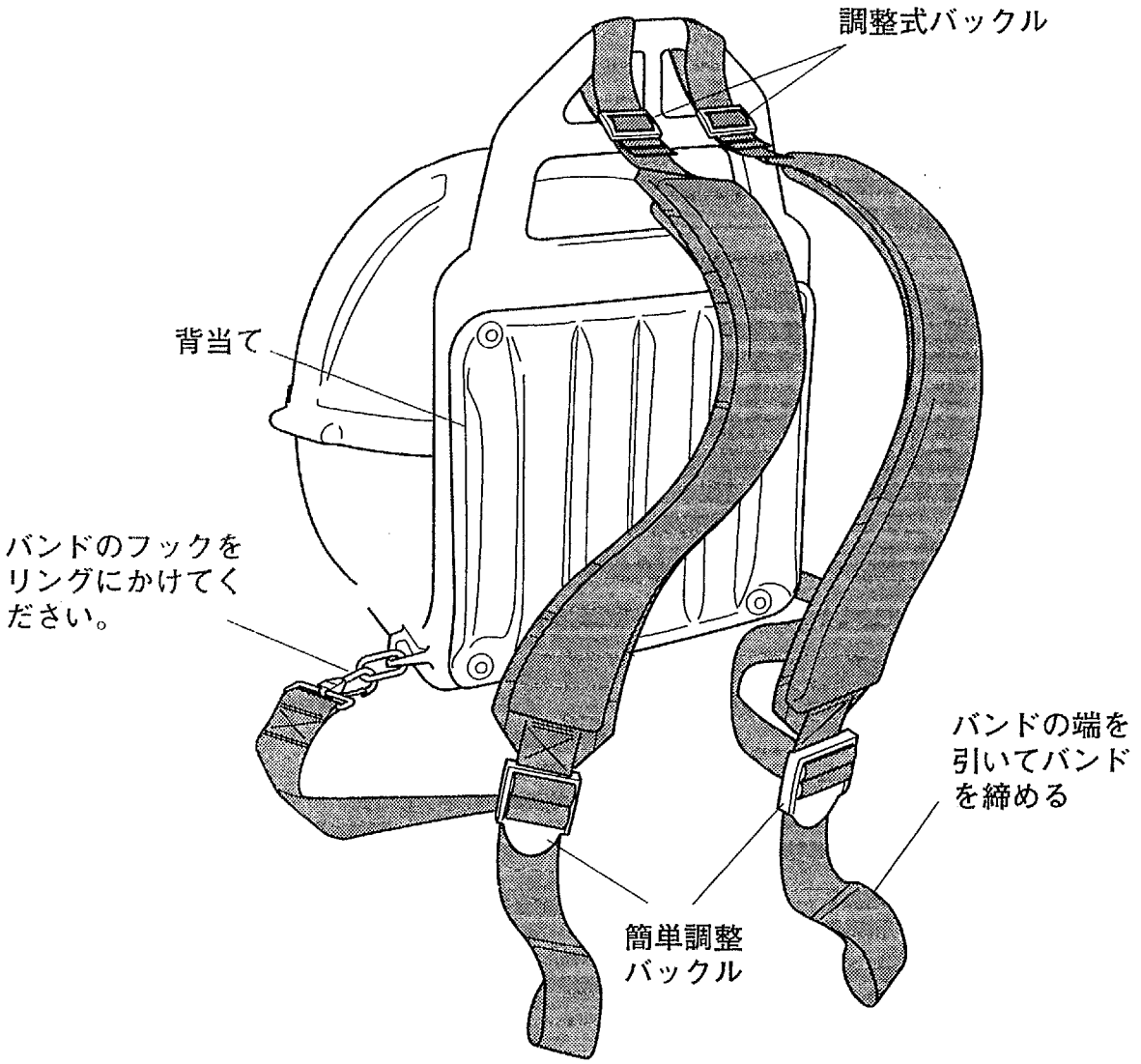
部品が傷ついたり、ゆるんだり、外れたらブロワの運転をやめてください

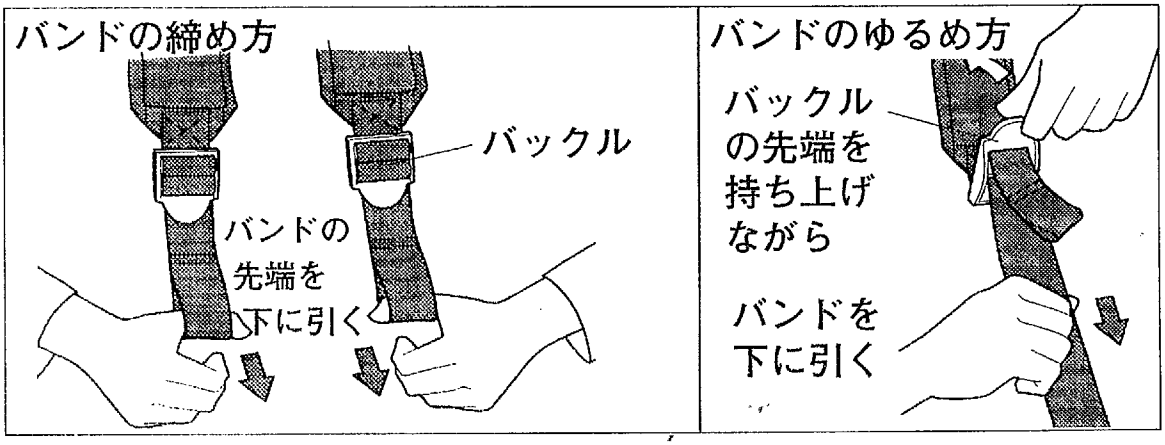
作業中は常に吹き出し方向に注意をはらってください
人や動物に直接風を当てないでください

視界の悪いときには使用しないでください

滑り止めのついた靴を使用し作業中はバランスを崩さないよう注意してください

5－2　バンドの調整


調整式バックル
背当て
バンドのフックを
リングにかけてく
ださい。
バンドの端を
引いてバンド
を締める
簡単調整
バックル


バンドの締め方
バックル
バンドの
先端を
下に引く
バンドのゆるめ方
バックル
の先端を
持ち上げ
ながら
バンドを
下に引く

6．点検・整備

⚠ 警　告

■ 点検・整備は必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
■ ガソリンはたいへん引火しやすいので、点検・整備は風通しのよい火気のないところで行ってください。

点検・整備表

項　　目		始　動　前	毎　　月	必要な場合
ボルト、ナット	点検、増締	○		
燃料キャップ、燃料タンク 燃料パイプ	漏れ点検	○		
エアクリーナー	掃除	○		
インテークカバー	点検	○		
キャブレター	調整			○
スパークプラグ	点検、掃除		○	
マフラー（スパークアレスター・テールパイプ）	掃除		○	（20時間毎）
シリンダーフィン	掃除		○	
燃料フィルター	掃除		○	
スロットルケーブル	調整			○

6－1　エアクリーナーの掃除

フィルターにゴミが詰まるとエンジンの回転が落ち、作業の効率が悪くなります。

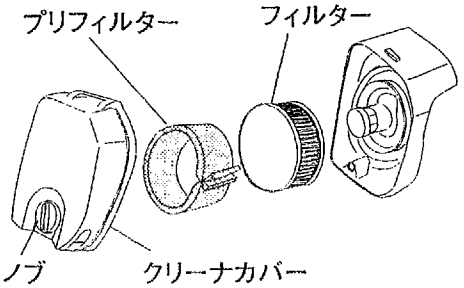
⚠ 注　意

■ 傷が付いたフィルターやフィルタを取り外したままでは絶対にエンジンを運転しないでください。ホコリやゴミなどによりエンジンが故障します。

①クリーナーカバーのノブをゆるめ、クリーナーカバーをとりはずし、プリフィルター、フィルターをとりはずしてください。

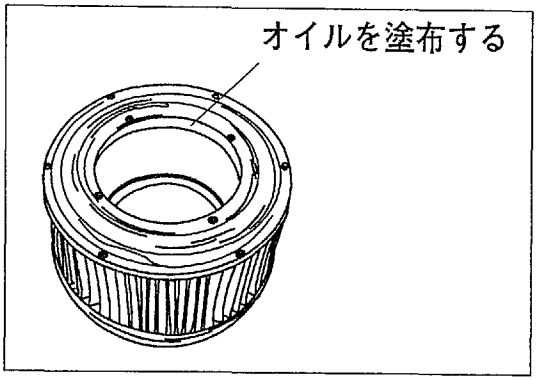
②プリフィルター、フィルターはコンプレッサーで内側から外側に向けてエアーを吹き付けてゴミやホコリを吹きとばしてください。コンプレッサーがない場合には、はたいてほこりを落としてください。フィルター ろ紙は傷付きやすいためコンクリート等の堅固な物にたたきつけないでください。

フィルターの外し方



クリーナーカバーの下のノブをゆるめ手前に引いて外す

③クリーナーを元どおりに取付けてください。
（クリーナーを取り付ける時、フィルターのシール部に２サイクルオイルを塗布してください。）



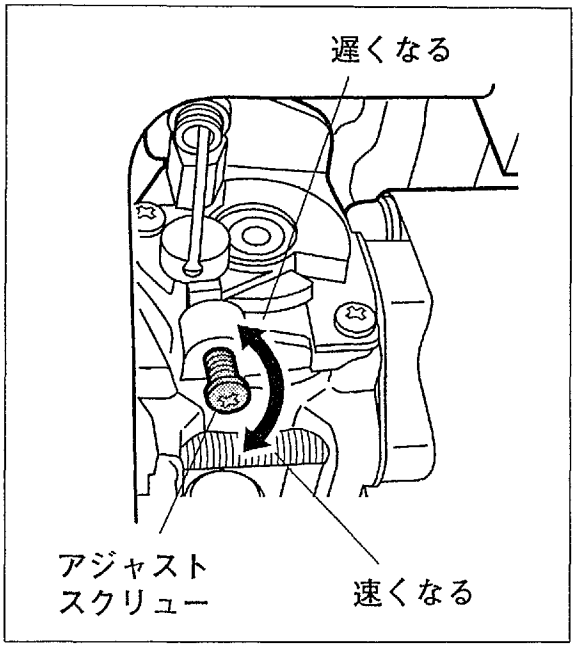
６－２　キャブレターの調整

キャブレターは工場出荷時に調整してありますので、調整の必要はありません。気圧、気候、燃料の違い、10時間以上の使用による状態変化等により、調整が必要になったときにのみ行ってください。

エンジンを始動し、２～３分間の暖機運転の後、次の手順で調整してください。また、エアクリーナーが汚れている場合は掃除してから行ってください。

（１）アイドリングの調整

アイドリングを調整するときは必ず、エアーインテークカバー、ベンドパイプ、フレキシブルパイプ、ストレートパイプ、ノズルをつけた状態で行ってください。
スロットルレバーをアイドリングの位置に合わせた状態でエンジンが安定して回転するようにアジャストナットを調整してください。
アイドリングの回転速度は
2200±200min^{-1} です。



メインジェットは固定式ですので、調整の必要はありません。

⚠ 注　意

■ **不調の場合は、当社指定販売店に調整を依頼してください。**

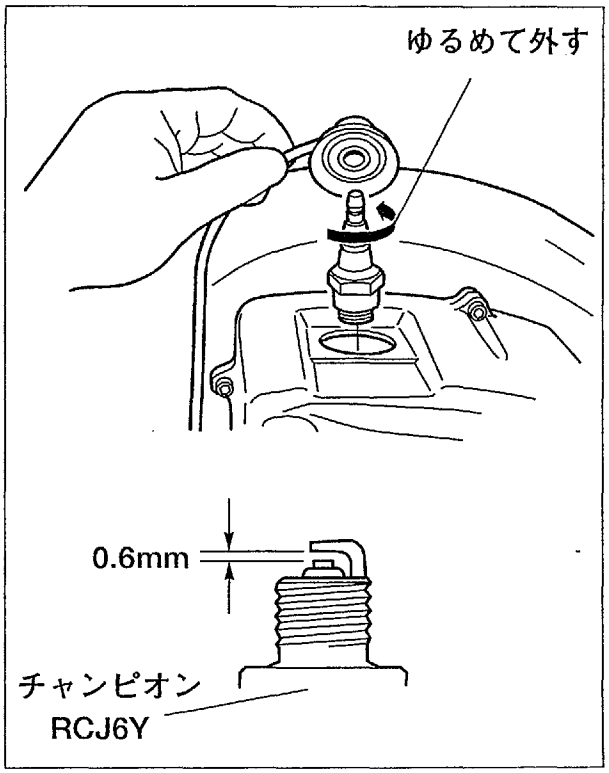
6－3　スパークプラグの点検

⚠ 注　意

- スパークプラグを外すときは、前もってスパークプラグとシリンダーヘッド部を掃除し、泥や砂などをシリンダー内に入れないようにしてください。
- スパークプラグを外すときは、必ずエンジンが冷えてから行ってください。シリンダーのネジ穴をいためます。
- スパークプラグは正しく取り付けてください。斜めに取り付けるとシリンダーのネジ穴をいためます。

エンジンの始動性が悪くなったり、アイドリングが不安定になった場合は、まずスパークプラグを点検してください。

①プラグキャップを外し、スパークプラグを付属のプラグレンチで外してください。
②ワイヤブラシでスパークプラグの汚れを落としてください。必要なら電極のすきまを調整をしてください。正しいすきまは0.6mmです。
③スパークプラグを手で締め付け、その後プラグレンチでしっかりと締め付けます。プラグキャップをしっかりと奥まで取り付けてください。

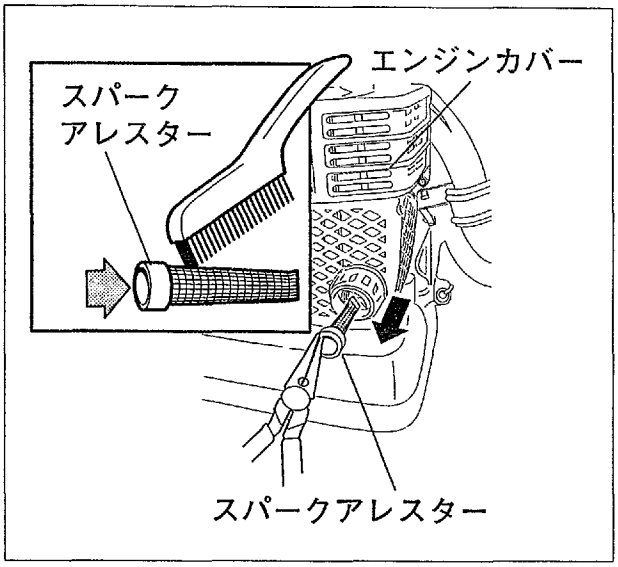


⚠ 注　意

- 約100時間運転後、または電極の消耗がひどい場合はスパークプラグを交換してください。スパークプラグはチャンピオン製RCJ6Yをご使用ください。

6－4　マフラーの掃除

マフラーのスパークアレスターを定期的にチェックし、掃除してください。



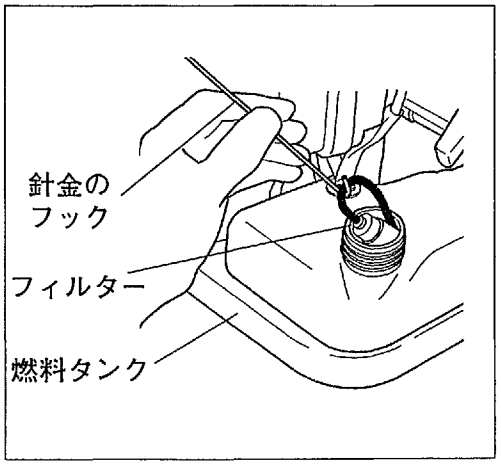
①先の細いプライヤーを使用してスパークアレスタを排気口より引きぬいてください。

②ワイヤブラシかプラスチックのスクレーパーでスパークアレスターに付着したカーボンを取り除きます。

③スパークアレスターが破れていたり錆びていたら新品に交換してください。

④スパークアレスターを排気口に入れ、ソフトハンマーで軽くたたきこんでください。

6－5　燃料フィルターの掃除



①燃料注入口から針金のフックでフィルターを引き出し、先端のフィルターを取り外してガソリンでよく洗ってください。

②組立前に燃料パイプを点検し、もし傷ついたり破損した場合は新品に交換してください。

③洗浄後、燃料パイプが折れないようにして、燃料フィルターを燃料注入口から燃料タンク内に戻してください。

7．長期保管

次の手順に従って保管してください。

①各部を十分に掃除してください。
②点検・整備の項を参考にして点検・整備を行ってください。
③燃料タンクの燃料を排出してください。
④エンジンを始動し、キャブレター内に残った燃料を使い切ってエンジンが停止するまで低速で運転してください。
⑤エンジン停止後、必ずスロットルレバーを「アイドリング」の位置にしてください。
⑥プラグキャップ、スパークプラグを外し、スパークプラグ穴から少量のオイルをシリンダー内に流し込み、オイルがゆきわたるように２～３回リコイルスターターを引いてください。
⑦スパークプラグ、プラグキャップをもと通りに取り付けてください。
⑧クリーナーカバーを外して、フィルターを掃除してもと通りに取り付けてください。
⑨乾燥した火気のない冷暗所に保管してください。

⚠ 注　意

■ **燃料タンク、フューエルパイプ、キャブレターの中に燃料が残った状態で長期保管をしないでください。燃料が変質します。**

8．故障の診断と処置

8－1　エンジンが始動しない場合

区　　分	原　　因	処　　置
エンジンが回転しない	・リコイルスターター不良	販売店で修理
	・ピストン焼き付き	販売店で修理
圧縮が弱い	・スパークプラグの緩み	締め付け、再始動
	・シリンダ、ピストン、ピストンリングの摩耗	販売店で修理
燃料の不良	・燃料の変質	新しい混合ガソリンを入れて再始動
キャブレターに燃料が来ない	・燃料フィルターのつまり	燃料フィルターを掃除して再始動
	・燃料パイプの破損	販売店で修理
スパークプラグが発火しない	・マグネトーの故障	販売店で修理
スパークプラグの点検	・スパークプラグが濡れている	スパークプラグを乾燥させ、リコイルスターターを数回引いてシリンダー内の燃料を排出し、再始動
	・スパークプラグのカーボンたい積	掃除し、再始動
	・スパークプラグのすきま不良	0.6mmに調整
	・スパークプラグが損傷又は種類が違う	新しいスパークプラグＲＣＪ６Ｙに交換

8－2　力がない場合

区　　分	原　　因	処　　置
エンジンの過熱	・長時間の過負荷使用	アイドリングに戻しエンジンを冷やす
	・キャブレター不良	販売店で修理
	・燃料混合比不良	正しい混合比の燃料を補給する
	・ファン、インテークカバー、シリンダーフィン、エンジンカバーにゴミが付着	ゴミ掃除
	・シリンダー内、ピストンにカーボンたい積	販売店で修理
	・マフラーにカーボンたい積	スパークアレスターを掃除
エンジンの回転むら	・エアフィルターの目づまり	エアフィルターの掃除
	・スパークプラグの締め付けがゆるいまたは不良	締め付けるまたは交換
	・燃料フィルター、パイプの詰まりまたはエア混入	掃除または交換
	・燃料に水の混入	燃料交換
	・ピストン焼き付き	販売店で修理
	・キャブレター不良	販売店で修理
ノッキング (ピストン部の異常音)	・エンジンの過熱	上記参照
	・燃料不良	燃料交換
	・燃焼室カーボンたい積	販売店で修理

8－3　その他の故障

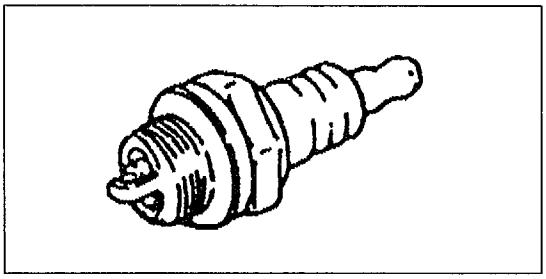
区　　分	原　　因	処　　置
加速不良	・エアフィルター目詰まり	エアフィルターの掃除
	・燃料フィルターのつまり	燃料フィルターの掃除
	・キャブレター不良	販売店で修理
	・アイドリング回転数が低い	回転数を上げる 2200±200min^{-1}
	・マフラーにカーボンたい積	スパークアレスターを掃除
	・ブロワのケースやブローパイプの漏れ、破損	販売店で修理
	・ファンにゴミが付着	販売店で修理
運転中にエンジン停止	・燃料の欠乏	燃料補給
	・燃料フィルター目づまり	燃料フィルターの掃除
	・燃料に水の混入	燃料交換
	・スパークプラグのカーボンたい積による短絡	掃除
	・プラグキャップの抜け	確実に取り付ける
	・マグネトー故障	販売店で修理
	・ピストン焼き付き	販売店で修理
エンジン停止困難	・停止スイッチの故障	販売店で修理
燃料の漏れ	・キャブレターのネジのゆるみ	販売店で修理
	・燃料パイプの破損	販売店で修理
	・燃料タンクの破損	販売店で修理

8－4　ブロワの異常

区　　分	原　　因	処　　置
ブロワの異常振動	・ファンの破損	販売店で修理
	・ボルトのゆるみ	締め付け
	・エンジンの損傷	販売店で修理
	・クッションの破損	販売店で修理
エンジンの過回転	・インテークカバー又はブローパイプのゴミつまり	ゴミを除去

9．主な消耗品（お買い上げの販売店にご用命ください）

スパークプラグ



チャンピオン　ＲＣＪ６Ｙ

１０．仕様

モデル		EB630
本体寸法　mm（長さ×幅×高さ）		460×350×495
本体乾燥質量　kg		9.0
エンジン	エンジン形式	空冷2サイクルエンジン
	排気量　mL	62
	点火方式	電子点火
	スパークプラグ	チャンピオン　RCJ6Y
	キャブレター	ダイヤフラム式 始動ポンプ付き
	エアクリーナー	濾紙式消音形
	燃料タンク容量　L	2.0
	燃料	混合燃料（ガソリン：2サイクル専用オイル＝25：1）
	始動方式	リコイルスターター
	停止方式	アース式（プッシュスイッチ）
標準装備		ブローパイプ一式 工具一式

＊本体乾燥質量はブローパイプ一式を除く。
＊仕様は予告なく変更することがあります。

shindaiwa

保証書

(Type-A)

このたびは新ダイワ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。お買い上げいただいた製品につきましては、つぎの通り保証いたします。

1．保証期間

無償保証修理を受けられる期間はお買い上げ日から１年間といたします。但し、専門業者またはレンタル業など業としてご使用の方はお買い上げの日から６カ月といたします。

2．保証内容

保証期間に通常の使用状態で本機を構成する部品に材料または製造上の不具合が発生し、弊社がこの欠陥を認めた場合にかぎり、修理を無償でいたします。

3．保証の適用除外

つぎに示すような場合は保証期間中であっても有償修理となります。

（1）取扱説明書に示す正しい取扱い操作や日常・定期点検、保管方法を行なわなかったために生じた故障
（2）弊社が示す仕様の限度をこえて使用したために生じた故障
（3）弊社が認めていない改造・変更が原因となって生じた故障
（4）弊社のサービス指定工場および弊社が認めたところ以外で修理し、それが原因で生じた故障
（5）弊社の純正部品以外の部品を使用したために生じた故障
（6）時の経過による変化（塗装面・メッキ面の自然退色、発錆など）
（7）一般的に品質、機能および安全上に全く影響がないと認められる音、振動、オイルのにじみ、外観上の軽微なキズなど
（8）自然災害または事故、過失、不注意による本機の損傷
（9）一般消耗品等で使用上における自然摩耗と認められるもの
(10) 製品が日本国外で使用された場合

4．注意事項

（1）本保証書の提示なき場合または記載内容の不備あるいは改訂のある場合は保証しかねる場合があります。
（2）本機の故障に起因するまたは関連するあらゆる損失および費用は保証の範囲から除外させていただきます。
（3）保証書の再発行はいたしませんので、大切に保管してください。

型式名(MODEL)：		製造番号(SER.NO.)：
お買い上げ日：	年　　月　　日	
お客様	お名前：　　印	
	おところ：〒	
	TEL：	ご職業：
販売店	住所：	
	店名： TEL：　　印	

新ダイワ工業株式会社
広島市安佐南区大塚西６丁目２－11

保証書番号　19701-02004

新ダイワ工業株式会社

本社	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2001
札幌営業所	〒065-0033	札幌市東区北三十三条東17丁目4-17	☎ 011-783-7551
仙台営業所	〒984-0042	宮城県仙台市若林区大和町1丁目22-45	☎ 022-239-1688
郡山営業所	〒963-0107	福島県郡山市安積4丁目48-1	☎ 024-945-8678
盛岡営業所	〒020-0122	岩手県盛岡市みたけ4丁目3-5	☎ 019-641-3416
東京営業所	〒134-0083	東京都江戸川区中葛西6丁目17-8	☎ 03-3687-5771
千葉営業所	〒264-0025	千葉市若葉区都賀3丁目19-1	☎ 043-214-0260
多摩営業所	〒192-0043	東京都八王子市暁町2丁目6-3	☎ 0426-20-5590
横浜営業所	〒222-0025	神奈川県横浜市港北区篠原西町34-33	☎ 045-431-7786
厚木営業所	〒243-0014	神奈川県厚木市旭町5丁目47-18	☎ 046-228-2243
静岡営業所	〒422-8046	静岡市駿河区中島2834-1	☎ 054-282-7012
さいたま営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1丁目19-4	☎ 048-666-2521
宇都宮営業所	〒321-0912	栃木県宇都宮市石井町3149-28	☎ 028-656-8737
土浦営業所	〒300-0815	茨城県土浦市中高津1丁目12-48	☎ 0298-24-5212
前橋営業所	〒371-0037	群馬県前橋市上小出町2丁目46-3	☎ 027-234-5956
長野営業所	〒381-0043	長野市吉田5丁目24-16	☎ 026-244-3970
新潟営業所	〒950-0892	新潟市寺山3丁目32-12	☎ 025-275-5616
名古屋営業所	〒454-0826	愛知県名古屋市中川区小本本町1-75	☎ 052-362-2281
浜松営業所	〒435-0053	静岡県浜松市上新屋町231-6	☎ 053-467-0394
津営業所	〒514-0823	三重県津市大字半田池町590-5	☎ 059-227-2716
岐阜営業所	〒500-8367	岐阜市宇佐南4丁目2-4	☎ 058-271-4015
金沢営業所	〒920-0016	石川県金沢市諸江町中丁344	☎ 076-237-1230
大阪営業所	〒556-0022	大阪市浪速区桜川4丁目11-20	☎ 06-6561-8484
和歌山営業所	〒640-8482	和歌山市六十谷1234-7	☎ 073-462-7277
京都営業所	〒601-8304	京都市南区吉祥院前河原町1	☎ 075-321-0141
姫路営業所	〒670-0974	兵庫県姫路市飯田2-88	☎ 0792-33-6838
松山営業所	〒790-0064	愛媛県松山市愛光町9-14	☎ 089-922-8886
高松営業所	〒761-0101	香川県高松市春日町片田1638-7	☎ 087-843-1201
広島営業所	〒731-3167	広島市安佐南区大塚西6丁目2-11	☎ 082-849-2400
防府営業所	〒747-0031	山口県防府市迫戸町5丁目25	☎ 0835-27-0575
岡山営業所	〒700-0965	岡山市西長瀬261-104	☎ 086-241-3013
福岡営業所	〒812-0006	福岡市博多区上牟田3丁目5-22	☎ 092-411-9801
小倉営業所	〒803-0826	福岡県北九州市小倉北区高峰町10-8	☎ 093-561-3422
諫早営業所	〒854-0062	長崎県諫早市小船越町1021-3	☎ 0957-23-3341
大分営業所	〒870-0155	大分市高城南町7-13	☎ 097-552-1745
熊本営業所	〒862-0910	熊本市健軍本町7-17	☎ 096-365-0484
宮崎営業所	〒880-0022	宮崎市大橋3丁目134-2	☎ 0985-23-2126
鹿児島営業所	〒890-0073	鹿児島市宇宿2丁目23-18	☎ 099-257-6801

050411